

## 第 39 回 全国大会 研究ワークショップ 開催案内

日時：2024 年 12 月 7 日(土)10:30~12:00 会場：大阪成蹊大学駅前キャンパス

研究ワークショップ① 会場 202 **研究発表**・**ディスカッション**

### 災害後の地域復興の基盤づくりにおける観光の役割は何か —過去と現在の自然災害被災地を題材に—

代表者： 海津ゆりえ（文教大学）

災害多発時代に直面する日本において、地域復興を支える観光の可能性を探る研究ワークショップを開催します。報告者らは観光を通じた地域づくりにおいて、災害抵抗力・回復力を高めるにはどうすればよいかを福島県磐梯山や岩手県二戸市、岩手県宮古市、能登半島などの事例を通じて研究してきました。本ワークショップではこれまでの研究成果と新たな視点を報告し、来るべき災害に備えて観光地域がいかに「災害弾力性」を獲得し、地域の発展を持続することができるかを議論いたします。

災害と観光が交錯する現代において、地域と観光研究の新たな展望を切り拓くためにどうすれば良いのか。その視点からどのような観光研究のアプローチを見出すことができるのか。意見交換を通じて見出す機会としたいと考えています。どうぞ奮ってご参加ください。学生の皆様も大歓迎です。

【構成】 主旨説明・研究成果報告（4題）・フロアとのディスカッション・総括

【報告者】 海津ゆりえ（文教大学）、黒沢高秀（福島大学）、橋本俊哉（立教大学）、真板昭夫（嵯峨美術大学）

【講評】 室崎益輝（兵庫県立大学）

問い合わせ先：海津ゆりえ

E-mail：kaizu@bunkyo.ac.jp Tel：090-2667-4761

研究ワークショップ② 会場 203 **講演**・**研究発表**・**ディスカッション**・**グループワーク**

### 復興のツーリズム

代表者： 丸岡泰（石巻専修大学）

本ワークショップは本学会「復興のツーリズム研究分科会」構成員 9 名の研究発表と報告および学会員とのディスカッションを意図している。災害後の被災地を目的とするツーリズム現象を研究対象としている。

1. キー・ワード「災害復興のツーリズムのジレンマ」と「不親和性」の説明（代表者・10分）。
2. 構成員の研究成果報告（各5分）。構成員の研究は1人または2人の共同研究だが、便宜上、次の3グループに分けられる。(1)観光地経営の発展・衰退要因（3人）、(2)新データ・デジタル活用（3人）、(3)教育旅行（3人）。
3. 福島県視察（2024年3月）の概要説明（代表者・5分）。
4. ディスカッション（30分）：テーマ（a）集客力、（b）戦略的なデジタル活用体制の確立、（c）災害復興教育の内容と伝え方。上記3グループの範囲を超えたディスカッションにより災害後の被災地を目的とするツーリズムの発展とその復興への貢献の可能性を明らかにする新知見を得ることを意図している。ディスカッションでは分科会構成員と一般の学会員参加者との活発な意見交換を期待している。

問い合わせ先：氏名 丸岡泰

E-mail：maruoka@isenshu-u.ac.jp Tel：090-2888-8565

**ツーリズムの心理的効果： 基礎的知見と今後の展望**

代表者： 小口孝司

心理学を専門とする登壇者から話題提供を行い、中心的概念、方法論について紹介した上で、最新の知見を示す。さらに、研究の深化、社会的実装に向けて、学際的なコラボレーションを深めるために、全体でダイアログを行なっていきたい。

**ツーリズムの心理的効果研究に関する概観とワークショップの目的（小口）**

心理学観点からの観光研究の一端を述べ、現実のツーリズムを捉える新たな視座を示す。そこから、本ワークショップの目的を明らかにする。

**リカバリー経験（川久保）**

心を癒す旅であるメンタルヘルスツーリズムを紹介し、その中心的概念であるリカバリー（回復）経験を紹介する。その中でも、特に新たなことを学び、上達する「熟達」の役割について論じる。

**セイバリングの意義（宮川）**

経験を楽しみ味わう「セイバリング」をツーリズム研究に用いる意義を明らかにする。

**変革的旅行経験（中島）**

旅行が契機となり、既存の自己観や価値観に変容が起こる「変革的旅行経験」研究を示し、その課題を明らかにする。

**グループワーク（全体でのダイアログ）**

上記の研究知見の発表を踏まえた上で、参加者と共にダイアログを行いたい。学際的な議論が活発に行われることを期待したい。

問い合わせ先：氏名 小口孝司

E-mail： oguchi@rikkyo.ac.jp

Tel：<掲載しません。>

**発酵ツーリズム、時代を超えた真正性と経験価値が地方をよみがえらせる**

代表者： 近藤政幸

発酵ツーリズム研究会は、3年間で30ヶ所の発酵事業を司る都市の調査と毎月の研究会を通じて、時代を超えた真正性と経験価値が地域活性化に有効であることをみてまいりました。

戦後、マスツーリズムによる観光開発の影がかつての宿場町、城下町、湊町が現代に甦る地域文化遺産として注目されたもののひとつが発酵醸造業です。現代に継承される同集積地は、国内外に販路を得て、地方に存在基盤を得ることで重要な真正性高いヘリテージ価値を伝えています。それは発酵事業者を囲む自然環境の審美性、発酵職人の技術、発酵建屋建築の学びと脱日常性、食文化としての場所の味覚、支える1次生産者や顧客が発酵集積地としてのまちづくりを形成しています。

そこで本研究では、地域活性化の重要手段としての発酵ツーリズムと共にこれを支える観光マネジメントについて議論を深めたいと考えています。

- |                                |          |
|--------------------------------|----------|
| 1. 「酒蔵観光の成立と発展ーブランド、観光、テロワール」  | 尾家建生     |
| 2. 「発酵醸造都市の環境分析とビジョンとミッション」    | 近藤政幸     |
| 3. 「発酵都市の観光まちづくり」              | 永田美江子    |
| 4. 「発酵文化にふれる旅 岡山県真庭市 “まにわ発酵s”」 | マリア ヨトヴァ |

問い合わせ先：近藤政幸

E-mail：kondo@best.zaq.jp

Tel：090-8468-9717

**価値創出時代の「観光リカレント教育」：知識移転から「観光教育」の新たな方向性**

代表者：北陸先端科学技術大学院大学 出口 高靖

産業や企業間で価値創出を競う現代は、イノベーションを推進できる人材が求められている。他産業では優れた人材の確保に勤め、さらにリカレント教育で現在の人材の活性化を進めている。リカレント教育は、リスキリングと並び、明日の産業人材を育てるために重要である。

観光産業でも同様にイノベーション人材が重要である。しかし就労環境の厳しさと低い賃金水準で、観光産業では人材の確保が十分できていない。また地域観光の振興を担う人材は、専門性を認められず、キャリアパスが描けないでいる。

もちろん観光分野でも、観光カリスマへの注目、観光高等教育の拡充、観光人材育成への支援がこれまで進められてきた。また2024年度には、観光庁から育成のための方針が示され、観光地経営を担うトップリーダーと観光産業を担う実務家の二層についての標準カリキュラムが提起された。

しかし、他産業で進められてきた、カリキュラムの体系化や効果のあるリカレント教育プログラムの開発、教育技法の改善は遅れている。その原因は、観光リカレント教育が、学校教育とは別の高度なOJTだと考えられてきたからである。

そこでこのワークショップでは、観光リカレント教育に注目し、観光産業や地域観光を担う観光リカレント教育がなぜ必要か、どのような育成方法が必要か、育成した人材が参加する職場のマネジメントは何が課題かを議論する。

問い合わせ先：氏名 出口 高靖

E-mail：tdeguchi@jaist.ac.jp Tel：0761-51-1771